



**NCNPの活動**  
NCNP Operations and Management  
2019-2020

NCNPの国際的な取り組みや、  
資源を活かした社会貢献、  
人材育成などの活動をご紹介します。





## COVID-19 (新型コロナウイルス) 対策

### NCNP病院の取り組み

専門知識を生かしたワーキンググループで連携して対応  
感染予防だけでなくメンタルヘルスも

#### 多職種による対策「Cチーム」を結成

2019年12月に中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は急激な勢いで感染者数が増加し、2020年1月に指定感染症に指定されました。4月のCOVID-19流行による緊急事態宣言を受け、NCNP病院では5月より各部門の多職種による、COVID-19診療対応チーム(Cチーム)を結成、専門知識を活かしたワーキンググループ(以下WG)を立ち上げ、連携して対策を行いました。看護師を中心としたメンバーによるWGでは個人用防護具(PPE)の装着方法の病棟勉強会や手指消毒実施率の調査を実施、心理療法士および精神看護専門看護師によるWGでは職員のメンタルヘルスの相談対応や、COVID-19対応に従事する医師や看護師などの職員への情報提供や相談窓口の設置、外来部門や検査部門、リハビリ部門では手術室などにおける感染対策対応についてのマニュアルの整備など、各々の専門を生かして取り組み、円滑な業務が遂行されました。

緊急事態宣言期間中は、病院玄関におけるトリアージを行い、院内へのCOVID-19の持ち込み防止を徹底して行いました。緊急事態宣言解除後も、院内への持ち込みや拡大リスクを最小限とする対策として、手指衛生の徹底、サージカルマスク等の個人防護具の適正使用、環境整備の徹底、就業前の体温や健康チェックを継続。さらに全身麻酔手術患者対象LAMP法スクリーニング検査を開始し外部からの持ち込み防止を強化。陽性者の接触歴確認のため外出、外泊、面会、付き添い、出張、外勤、外部講師等の届け出制をはじめ、入院患者さんの入院前4日間の健康チェックと入院後4日間の原則個室対応等を徹底して行っています。



COVID-19 感染に対する院内の取り組みの様子  
病院玄関トリアージ開始。COVID-19診療対応チーム(Cチーム)勉強会

#### 近隣患者の受け入れ、Cエリアの運用

6月には近隣病院でCOVID-19を発症した精神科の患者さんを精神科個室対応が可能な病棟で受け入れ、COVID-19精神科専用病棟運用を開始しました。8月には、東京都との連携のもと、軽症COVID-19患者専用病棟として臨床研究病棟に4病床(Cエリア)を開設し、主として精神科疾患・認知症を有するCOVID-19陽性患者の受け入れ治療を行っています。Cエリア開設後、Cチームを解散し、新興・再興感染症対策チーム(EICT)を感染防止対策室の下部組織として設置し、活動を引き続きしました。

NCNPでは新型コロナウイルス感染症対応マニュアル及び院内対応フェーズを整備し、感染状況に応じて適時修正を行いながら運用しています。毎週行われるEICT会議で、センター内の感染対応フェーズ決定、発熱患者への対応、陽性患者への外来受診、Cエリア内外での対応について院内各部署間の情報共有と状況に応じた対応を周知徹底しています。標準予防策の徹底、個人防護具装着の徹底はもちろんのこと、外来患者への電話診療の推奨、オンラインでのセカンドオピニオン、診療の開始、感染予防のための環境整備、不要不急な面会制限などを行っています。

精神疾患や神経筋疾患の患者さんが、長期にわたる過度な感染対応による抑制で精神症状の悪化や身体症状の退行などをきたさないように、看護部やリハビリテーション部を中心に精神・身体的ケアを行っています。

また、COVID-19禍での長期にわたる感染対応による職員のストレスの増大に伴うメンタルヘルス対応も、精神科と看護が中心となって行っています。



Cエリアの感染対応と診療の様子  
リモートリハビリテーション、リモート歯科診療、患者搬送訓練

### 研究所

#### COVID-19対策委員による感染防止の取り組み

精神保健研究所・神経研究所では、緊急事態宣言発令と同時に研究所COVID-19感染対策委員会を組織しました。委員会では、感染防止のための行動原則を策定して研究所員に周知徹底するとともに、市中感染の拡大状況に応じてさまざまな感染防止対策を機動的に実施しています。同時に、ヒトを対象とした研究を実施するためのガイドラインを策定し、研究所における感染拡大防止と安全な研究遂行の両立を図っています。

#### 「コロナ心の支援情報」を発信

COVID-19感染拡大と、その対策の影響により、生活や仕事などにストレスを感じる方が増えていることが指摘されています。精神保健研究所では、こうしたストレスと上手につきあうためのヒントや、心の健康を保つために役に立つ情報などをホームページ上で発信しました。

感染拡大防止のため、多くの方が、COVID-19感染への不安、仕事や将来の見通し等についての不安などを抱えています。そこで、行動医学研究部、ストレス・災害時こころの情報支援センターからは、「感情調整の方法」「セルフケア」「コミュニケーション」「呼吸法」など、不安やストレスへの対応のヒントになる情報を提供しました。音声付きのスライドや、ビデオのデモンストレーションもあります。

ステイホーム(自宅待機)が強く推奨される状況で、生活習慣を整えることは、身体の健康のみならず心の健康を保つうえでも重要です。ステイホームや在宅勤務が長く続くことによって生活のメリハリをつけにくくなる人は多く、中でも睡眠パターンの乱れは心の健康に悪影響をおよぼしやすいものです。睡眠・覚醒障害研究部のホームページでは、ステイホーム中に睡眠健康を保つ上で重要である睡眠一覚醒リズムを保つためのコツを紹介す



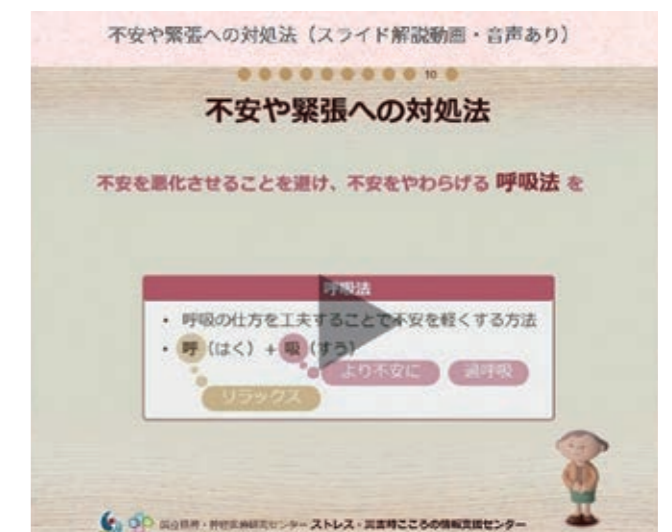
研究テーマごとに情報を提供

るとともに、不眠の兆候が現れたときの対処法や、仕事のために睡眠時間が十分確保できない方へのアドバイスも掲載しました。

急な環境の変化や、テレビやインターネットがCOVID-19関連の情報であふれる中、子どもたちの心も不安定になりがちです。そしてそのような子どもとの接し方に悩む大人も少なくありません。知的・発達障害研究部では、COVID-19の子どもたちへの影響や、子どもたちのために私たちができることについて発信しました。新しい日常への適応は、誰にとってもストレスですが、特に発達障害の子どもたちは変化への対応を苦手としている場合も多く、より大きなストレスを抱えがちになります。そこで、児童・予防精神医学研究部では、発達障害の子どもへの育児について、「環境づくりや声掛けのコツ」「子どもとの遊びを楽しむコツ」「意欲を育むコツ」といった観点からわかりやすくまとめました。

薬物依存研究部では、日本アルコール・アディクション医学会および国立薬物乱用研究所(NID、米国)から発出された、アルコール依存症やゲーム障害等のアディクション、喫煙者や薬物使用者に対する健康影響に関する注意喚起につき紹介しています。

これらの情報が、皆様の心の健康の維持増進に役立つことを願っております。



動画による情報発信



## NCNP病院 身体リハビリテーション部

## With新型コロナ時代の新しいリハビリテーションの試み

## 遠隔・非接触のプログラム

COVID-19の流行下、リハビリテーションは身体密着や飛沫・エアロゾルが出る訓練が多く感染リスクが高いため、施設によっては縮小・中断を余儀なくされています。NCNP身体リハビリテーション部では、十分な対策のもとで行う方針で、新しいリハビリテーションの方法を模索し、以下のように取り組んでいます。

## ●患者さん・ご家族に向けた動画配信の取り組み (QRコード①)

筋ジストロフィー、パーキンソン病・パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の4疾患を対象に、患者さん、ご家族、専門職の方向けに自宅でも行えるリハビリテーションの方法を、NCNP病院のホームページとYouTube公式チャンネルを使って公開しています。動画では次のことを紹介しています。

- 1.筋ジストロフィー患者さんのご家族にもできる、手足の筋肉や関節が硬くならないようにするストレッチ方法や運動の注意点
- 2.パーキンソン病の方が自分でできる姿勢や自宅内歩行練習の注意点
- 3.脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症の方に接している専門職への、当院で行っているリハビリテーション内容や研究成果のご紹介

今後は運動やストレッチの紹介を充実させるほか、生活環境や身体状況の確認方法なども紹介していきます。

## ●非接触型の環境制御装置の利用 -ジェスチャインタフェース-

手指や表情などの小さな動きでパソコンの操作や、エアコン・電灯の点灯などの環境制御を行える“ジェスチャインタフェース機器”を、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立障害者リハビ

リテーションセンターと共同で開発し、難病患者さんによる利用を進めています。患者さんが自宅でも機器に直接触れずに環境制御ができるため、自立支援に繋がります。緊急事態宣言下でも、これを利用してPCを用い、在宅で就業を継続できたケースもあり、今後も活用を進めていきます。(QRコード②)

## ●リモート訓練プログラムの試行

感染対策で直接診察が困難になる患者さんには、パソコンやタブレット端末を用いたリモート会議システムで、リモートリハビリテーションを行っています。言語聴覚士が言葉や飲み込みについて外来で評価した後に、発声や音読練習といった自主トレーニングの指導を組み合せてみます。このノウハウを生かして、COVID-19病棟で理学療法士がリモートで病棟訓練指導を行ない、作業療法士が日常生活動作や社会生活についてお手伝いするプログラムを行いました。入院した患者さんが入院時よりも活動が向上して退院されたケースもありました。

遠隔でのリモートリハビリテーション訓練は感染のリスクを減らせるだけでなく、通院が困難な場合や遠隔地であっても実施できる利点があります。海外では遠隔訓練アプリなどが開発されており、我が国でも普及できる手がかりになれば取り組みを進めています。

## ●将来に向けて

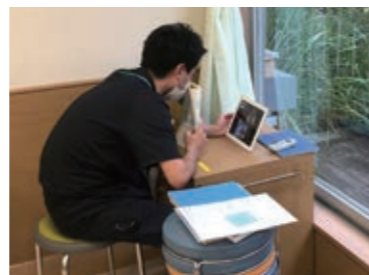
私たちは、感染対策を契機に遠隔・非接触といった新しい手法を積極的に進めています。安全面・保険診療など超えなければならないハードルはありますが、この壁を乗り越え臨床へ応用するのがNCNPの使命になります。



動画配信プログラム撮影風景



ジェスチャによる非接触型スイッチを使った環境制御装置



資料を提示しながらのリモート訓練の様子

## 病院・身体リハビリテーション部

運動学・脳科学に基づき、生活、社会参加を見据えたリハビリテーション 医療・医学を提供すべく、診療・研究に取り組んでいます。  
ホームページ : <https://www.ncnp.go.jp/hospital/guide/sd/rehabili.html>

QRコード①  
YouTubeの公式チャンネルを使ってNCNP病院ホームページで「各疾患ごとの対応の具体例」として動画を配信。

QRコード②  
ジェスチャインタフェースの紹介

## 臨床心理部

## 公認心理師のあり方や養成に関する全国調査と今後への提言

## 公認心理師が国家資格になって初の大規模全国調査

## 臨床心理部による医療機関対象の大規模調査

NCNP病院の臨床心理部は、全国的にも珍しく多数の心理職が配置されており、現在は常勤16名、非常勤5名が在籍しています。配属は臨床心理室、医療観察法病棟、リワーク、デイケアに分かれており、業務内容としては心理検査、個別心理面接、各種グループプログラム、研究活動、研修・講演活動、学生実習、地域援助等、人材の豊かさを生かした幅広い業務を担っています。

臨床心理部では、2017年に国家資格である公認心理師が誕生したことを受けて、厚生労働省の補助事業として全国の医療機関を対象とした大規模な調査を行いました。この調査は、医療現場で働く心理職の職務実態と期待されている役割、必修となった医療における実習の実態を把握することにより、今後の公認心理師養成に必要な専門性や資質を検討することを目的としたものです。調査は、全国4000か所の医療機関を対象としたアンケートと、全国各領域の医師とその他専門職を対象としたインタビューという方法で行われました。アンケート調査からは、公認心理師に対する関心の高さや期待が反映された貴重な結果が得られました。また、インタビュー調査では、精神科関連の病院・診療所のみならず、身体科、小児科、産婦人科、感染症科など様々な医療の領域からも心理職の活動に対する期待が寄せられました。



臨床心理室のメンバー

## 公認心理師に対する期待と今後の課題

調査結果からは、公認心理師が従来担ってきた心理検査や面接などの基本業務に加え、今後はより専門的な心理支援のスキルを持ち、そうしたスキルを多職種チーム医療で生かすこと、職員の心の健康にも寄与する職種となることへの期待が示されました。また、こうした期待にかなう人材を養成するために重要な医療実習は、内容や質の標準化と受け入れ先の拡充が求められていることが明らかになりました。公認心理師に対する幅広い要望があがった一方で、医療機関における常勤心理職の雇用は極めて限定されているという実態も浮かび上がっています。本調査では、常勤心理職の配置人数が増えると各種疾患に対する専門的心理支援や多職種チームにおける役割の発揮、地域連携等が有意に拡充するが、非常勤心理職が増えても支援の拡充にはつながりにくい、という新たな知見が得られており、医療現場における心のケアの重要性が指摘される昨今、常勤心理職の配置増は喫緊の課題と言えます。

こうした結果を踏まえ、NCNP臨床心理部では、公認心理師関連諸団体との連携のもと、優れた人材を養成するための医療実習や卒後教育制度の整備、そして公認心理師業務にかかる診療報酬や配置要件につながる資料の創出や政策提言をさらに進めていきます。公認心理師が心の健康の専門家として医療やその他の領域においてより貢献できる存在へと発展していけるよう、NCNP臨床心理部は今後も新しい取り組みを続けていく予定です。

## 【リファレンス】

厚生労働省 令和元年度障害者総合福祉推進事業  
【公認心理師の養成や資質向上に向けた実習に関する調査】  
<https://www.ncnp.go.jp/hospital/news/2020/721.html>  
2020年5月22日

## 病院 臨床心理部・臨床心理室

当室では心理検査と心理療法を行っています。対象は精神科、神経内科、小児神経科、脳神経外科に入院および通院の患者さんなど多岐にわたり、個別および集団心理療法に力を入れています。メンバーのほぼ全員が国家資格である公認心理師と日本臨床心理士資格認定協会発行の臨床心理士資格を取得しています。週に2回多職種カンファレンス、毎月1回の症例検討会（日本臨床心理士会資格認定協会の認定研修会）のほか、認知行動療法センターや薬物依存研究部と連携し、ケースのスーパーバイズを受けたり、各種研修会に参加するなどして、最新の知見について学び、スキルアップに努めています。



## 公開活動

### 市民公開講座

医療・研究の最先端の情報を現場から直接伝える

#### 専門領域を活かした講座を開催

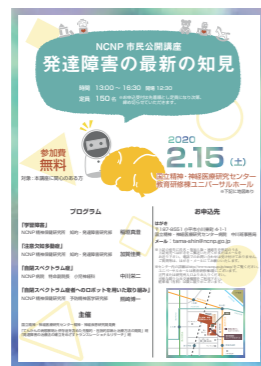
NCNP病院では、精神、神経疾患の専門医を配置し、他の医療機関からの紹介を積極的に受けて、高度で専門的医療を提供できるように努めています。より高度で専門的治療を提供するため、専門外来、セカンドオピニオン外来と専門疾病センターを設けて診療を行っています。専門疾病センターでは、診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的診療を行う体制を組んで診療を行っています。また、神経研究所、精神研究所と協力して新しい診断法・治療法の開発に取り組んでいます。臨床研究・治験による診療では、精神・神経・筋疾患・発達障害における革新的な治療法を開発するために、各診療科と臨床研究推進部との協力により国際共同治験、早期探索的臨床治験、医師主導治験を積極的に行っています。さらに、専門看護師、認定看護師による専門外来を設けて、摂食・嚥下障害認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、認知症看護認定看護師による専門外来指導を行うことでより細やかな診療援助や在宅での療養支援を行っています。

このような最新の診療や研究の成果をお伝えするために、2017年度より、毎月NCNP市民公開講座を開催してまいりました。各診療部門や専門疾病センター、専門チーム等が中心となって専門分野の最先端の情報を公開しています。

毎回、100～200名前後の方にNCNPで直接参加していただいておりますが、今後はさらにより多くの方にご参加いただけるように、インターネットを用いた公開講座を開催していく予定です。



2019年度に開催された講座のポスターより



NCNP病院 2019年度開催講座			
開催年	開催日	主催	講座名
2019年	4月20日	嚥下障害リサーチセンター	パーキンソン症候群患者さんとご家族、医療スタッフのための摂食嚥下
	5月25日	気分障害センター	うつ病治療のポイント～社会復帰するために～
	6月8日	筋疾患センター	第16回筋ジストロフィー市民公開講座
	6月15日	MSセンター	多発性硬化症・視神経脊髄炎講演・個別相談会
	6月18日	患者サポートセンター	当院における未診断疾患イニシアチブ(IRUD)に関する取り組みについて※医療連携後援会
	7月6日	てんかんセンター	てんかんと発達障害:最新の知見
	7月28日	薬物依存症治療センター	薬物依存症からの回復とは何か
	9月7日	PMDセンター	パーキンソン病と睡眠障害
	9月28日	ブレインバンク	パーキンソン症状をきたす疾患の治療法開発とブレインバンクの役割
	10月5日	専門看護室	知っていますか?フレイルのこと
2020年	10月19日	睡眠障害センター	よい睡眠で健康に!
	11月23日	統合失調症早期診断・治療センター	統合失調症とうまく付きあおう
	11月24日	専門看護室	在宅での感染管理のツボ
	1月18日	てんかんセンター	てんかん診断と治療の進歩
	1月21日	患者サポートセンター	依存症について
	2月15日	発達障害研究班	発達障害啓発講座



2019年度の講座の様子

病院 専門疾病センター…診療科を超えたチームによる高度専門的診療を行っています。

- 多発性硬化症 (MS) センター ● 筋疾患センター ● てんかんセンター ● パーキンソン病・運動障害疾患 (PMD) センター ● こころのリハビリ地域支援センター
- 睡眠障害センター ● 統合失調症早期診断・治療センター ● 気分障害センター ● 認知症疾患医療センター ● 嚥下障害リサーチセンター ● 薬物依存症センター

## 看護活動

### 物質関連障害の短期入院治療プログラムの開発と実践 (FARPP)

#### 患者さんとの良好な治療関係を築く

NCNPでは、精神科救急病棟で実践可能な物質関連 (アルコールや薬物等) 使用障害の患者さんを対象にした集団治療プログラム (First Aid Relapse Prevention Program : 以下 FARPP) を実践しています。

本プログラムは医師が主導で、看護師、作業療法士、精神保健福祉士が参画し、①あなたにとっての薬物やアルコールとは②コントロール障害と依存症③引き金と欲求④回復のために、という内容で患者さんとグループミーティングを行います。看護師は患者さんと共に依存症について理解を深め、治療に対してポジティブなイメージが持てるよう共感的にかかわり、治療につながる橋渡しの役割を担っています。さらに患者さんのこれまでの苦労を労い、少しでも癒しの時間となるよう努めています。

2019年に実施した看護研究では、これらの関わりによって『FARPPの参加前後で、患者の治療意欲の向上に有意差が認められた』という結果も得られました。

今後も患者さんの一番身近にいる看護師が、依存症に苦しむ患者さんに寄り添い、良好な治療関係の構築に努めながら、多職種と共同して患者さんの回復にむけたプログラムを継続していきます。



FARPPのプログラムテキスト



和やかな雰囲気でのFARPPの実践場面

## 産学官連携

### 日本初のうつ病用治療アプリの開発を目指して

#### 研究成果を社会で活かす

NCNPでは、企業や大学との共同研究や知的財産等のライセンスを通じて研究成果を産業界で有効に活用できるよう、産学連携活動を積極的に行っております。2019-2020年の連携トピックスとしましては、「こころアプリ」の製薬企業への導出が挙げられます。

NCNPと京都大学が共同開発した本アプリは、精神療法の一つである認知行動療法 (Cognitive Behavioral Therapy : CBT) に基づく治療用アプリです。

これまでにうつ病患者さんを対象とした医師主導臨床研究で、抗うつ薬と本アプリの併用により、薬剤単独群と比較して、うつ病の症状を改善することが確認されています。娯楽性や視覚的な工夫をこらした本アプリを、薬物療法と併用することで、抗うつ効果をさらに高めることが期待されており、導出先の製薬企業とともにうつ病の治療用アプリとして、日本で初めての医療機器製造販売承認の取得をめざしています。



認知行動療法に基づくうつ病治療アプリのイメージ図



## 国際交流

### NCNPの国際化をめざして! 国際交流ギャザリング

NCNP国際化プロジェクトの一環として、センター内での国際的交流の活性化を目的に、過去3年間で計6回の国際交流ギャザリングを開催しています。今期は2020年1月に開催し、50名ほどの職員が参加いたしました。2019年度は、特に普段外国人との接点が少ない部局の職員の参加を促すことを目標としており、今回は事務系職員を対象としたプログラムを企画しました。また紹介する外国文化として、職務上身近な国であるアジアの中から、今回はインドの紹介プログラムを企画しました。同国出身の職員を始め、企画スタッフによる様々な催しを通じてインドの文化や歴史を五感で感じることができた企画となりました。さらに、普段の職務ではあまり接点がない職員同士がプログラムを通して交流できる機会となるような工夫もされ、活発なコミュニケーションが行われました。



事務系職員の仕事を英語でプレゼンテーション



チームを組んでインドの風景写真のパズルを解く、クイズ形式のレクリエーションの様子



研究者が出身国の文化を紹介

## 連携大学院・連携協定機関

### 連携大学院制度 国内10大学 連携協定機関 国内外12機関

#### 連携大学院制度で人材交流、 研究開発の連携強化

NCNPでは、国内外の大学または研究機関等と連携協定を締結し、共同研究の実施、合同シンポジウム等を通じて、精神・神経疾患等における研究開発の連携強化および専門家の育成に取り組んでいます。

2019年度には国内の連携10大学より、延べ53名のNCNP職員が客員教授や客員准教授等を委嘱され、大学の講義を持つ等、学生の指導を行い、研究生の受け入れ等の相互交流を実施しました。この連携大学院制度により、NCNPのメンバー（職員）も受験して大学院生になることで、NCNPで最先端の研究を続けながら学位取得を目指すことが可能となり、2019年度は、13名が修士または博士の学位を取得しました。一部の大学からは学部生も受け入れ、2名が学位を取得しました。

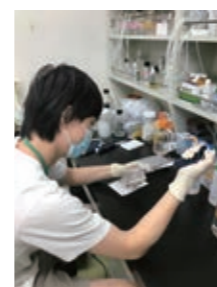
また、医学や科学技術の発展のため、国内外の研究機関等と人事交流を行い、研究員や医師等を実習・研修の場に受け入れることで専門家の育成に協力しています。

#### 連携中の大学・機関（2019年12月現在）

- ・学校法人 早稲田大学
- ・国立大学法人 東京医科歯科大学
- ・国立大学法人 山梨大学
- ・国立大学法人 千葉大学
- ・国立大学法人 東京農工大学
- ・学校法人 東邦大学
- ・国立大学法人 東京大学
- ・国立大学法人 東北大学
- ・国立大学法人 お茶の水女子大学
- ・公立大学法人 横浜市立大学
- ・メルボルン大学（精神医学教室）
- ・ピエール・マリー・キュリー大学（パリIV大学 筋学研究所）
- ・ペンシルバニア大学  
不安障害治療研究センター
- ・オックスフォード大学  
MDUKオックスフォード  
神経・筋疾患研究センター
- ・世界保健機関（WHO）  
協力研究センター
- ・シンガポールメンタルヘルス機構
- ・ソウル国立精神衛生センター
- ・マヒドン大学シリラート病院
- ・プラサート神経学研究所
- ・国立研究開発法人  
量子科学技術研究開発機構  
放射線医学総合研究所
- ・独立行政法人  
医薬品医療機器総合機構



東京農工大学・NCNP合同シンポジウム  
ポスター発表の様子



研究に参加する東京医科  
歯科大学の大学院生

## 研究倫理

### 倫理委員会

#### 第三者の立場で公正に審査する

NCNPでは、医学系研究が「ヘルシンキ宣言」に沿って、研究に参加する全ての方の人権、安全及び福祉に配慮して行われるよう、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」等のルールに従い計画されているかを、倫理委員会において公正に審査しています。

倫理委員会の委員は、法的・倫理的・社会文化的にも、異なった分野の皆さまの意見が取り入れられるよう構成されています。研究機関及び研究者等が自分たちの利益を優先することがないように、倫理的および科学的に適切な判断が求められています。研究計画が医学的に認められるか、研究に参加する方の人権（生命、身体、自発的な協力の気持ち等）を守ることができるか、という点を中心に、様々な視点から審査を行っています。研究の発展につながるよう研究者と研究参加者の間のバランスをとることが委員会の使命です。



倫理委員会（オンライン開催）の様子

### 臨床試験審査委員会

#### 新しい治療法を人権と安全の保護のもとで

有効で安全な医薬品や医療機器、再生医療等製品を広く患者さんが利用できるようにするには、「医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」という法律のもと、国の承認を得るための臨床試験（治験）を行う必要があります。今までにない新しい治療法が有効なのか、安全なのかは、まだわかりません。そのため、治験は科学的根拠に基づき、患者さんの人権保護と安全確保について十分に配慮して行われなければなりません。治験が科学的・倫理的に正しく実施できるかを審

### 臨床研究審査委員会

#### 厚生大臣認定を受け質の高い審査を実施

平成30年4月1日に「臨床研究法」という法律が施行されました。臨床研究法では、医薬品等を人に使用することによって、その医薬品等の有効性・安全性を明らかにする研究を臨床研究と言います。NCNPでは、厚生労働大臣の認定を受けた臨床研究審査委員会を設置し、ナショナルセンターとしての機能を果たすべく、NCNP内部だけではなく、外部機関の研究者からも法の対象となる研究の審査依頼を受付ける体制を整えました。

委員会に所属する委員は、医学または医療の専門家、臨床研究の対象者の保護および医学医療分野における人権の尊重に関して理解のある法律の専門家、生命倫理に見識を持つ人、一般の人で構成されています。また、研究内容に応じた専門家による意見をふまえて、臨床研究の対象者の生命、健康、人権を尊重し、法律に定められた臨床研究の基本理念に従い審査しています。



臨床研究審査委員会（オンライン開催）の様子

査するのが臨床試験審査委員会です。この委員会は、新しい治療法の開発に携わる医師・製薬企業等から独立した第三者機関です。専門委員（医師、看護師、薬剤師等の医学専門家）、非専門委員（医学等の専門知識を有しない人）、外部委員（医療機関と利害関係のない人）で構成されており、治験に関する厳しい基準（GCP省令）に沿って、公正に審査しています。



臨床試験審査委員会（オンライン開催）の様子



# 人材育成

## NCNPの医療・研究の技術を広げる活動

NCNPでは各部門の医療・研究実績を生かした多くのセミナーを行っており、医療者・研究者の育成・臨床研究の充実を目指しています。また、リーダーとして医療・研究の場で活躍できる人材の育成を目指して、重点的な取り組みを行っています。

精神医学の分野では、光トポグラフィ、認知行動療法、精神保健医療、暴力防止など多彩な研修を実施しており、多くの医療関係者が受講しています。

また、PTSD、発達障害、摂食障害については厚生労働省からの委託、要請を受けて研修を実施しています。

### 2019年度 研修の実施状況

◆主に外部の若手医師・研究者、メディカルスタッフ、企業人などを対象とした研修

		(受講人数)	
研究支援	TMC 臨床研修制度 (Clinical Research Track)	内外若手研究者	306人
	臨床研究に携わる人のための生物統計学講座	内外若手研究者	307人
	医学英語論文ライティングに関する実践的なセミナー	内外若手研究者	51人
精神保健	精神保健に関する技術研修課程	精神保健に従事する医療関係者	676人
	精神保健指導課程研修	市町村・都道府県の精神保健行政に関わる者	74人
技術	光トポグラフィ実践研修	医師等	23人
	腰椎穿刺の研修	医師	7人
治療	認知行動療法 (CBT) 研修	医療従事者	559人
	PTSD 対策専門研修	医療従事者	398人
	認知リハビリテーションに関する実践研修	医療従事者	60人
	包括的暴力防止プログラム研修	医療従事者	31人
	夏の筋病理セミナー	医療従事者	41人
	RST (呼吸ケアサポートチーム) 公開講座	医療従事者	48人
	医療・介護従事者のための専門看護室ケアセミナー	訪問看護ステーションに在籍する看護職	27人
	院内看護師臨床教育研修	看護師 (院内)	242人
	PTSD 持続エクスポージャー療法臨床教育研修	医療従事者	29人
			合計

## 精神保健研究所の研修活動

### 地域精神保健医療の質の向上に寄与

精神保健研究所は1949年1月、アメリカのNIMHをモデルに厚生省の附属機関として設置された歴史を持ち、当初より精神衛生に関する諸問題について、精神医学、心理学、社会学、社会学、保健学と各分野の専門家による学際的立場からの総合的、包括的な研究と活動を行うことを目標にしています。その使命に基づき、精神保健福祉の業務に従事する医療保健福祉関係者ならびに研究者等に対して精神疾患、発達障害等に関する専門的知識の普及および技能の向上を図ることを目的に、1959年以降、多くの研修が実施されてきました。その当時の技術研修は現在でも受け継がれて発展し、地域での精神保健福祉医療、支援、治療について現場の臨床家をはじめ、行政関係者等が数多く受講し、日本の地域精神保健医療の質の向上に寄与してきたと言っても過言ではありません。

2019年9月以降、薬物依存症概念の理解と薬物依存症に対する臨床的対応の普及のための薬物依存臨床医師研修ならびに薬物依存臨床看護等研修、摂食障害の病態と治療に関する最新の知見の普及のための摂食障害治療研修、発達障害児・者が合併する精神疾患の早期対応と適切な治療のための発達障害地域包括支援研修、「地域における課題と施策のモニタリング」に関する精神保健指導課程研修、サイコロジカル・ファーストエイド (心理的応急処置：PFA) の基本技能を習得するための災害時PFA

と心理対応研修、認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修、発達障害児に対する医学的介入と心理社会的支援のための発達障害支援医学研修を実施しました。

COVID-19の影響で2020年春からの研修は見合わせていましたが、インターネットを活用して徐々に再開されており、今後は新しい研修の形も模索しながら、一層の発展を目指しております。

2019年度精神保健に関する技術研修課程 実施一覧	
2019年5月	[第3回] 災害時PFAと心理対応研修
2019年6月	[第27回] 発達障害支援医学研修
2019年7月	[第56回] 精神保健指導課程研修
	[第14回] 発達障害地域包括支援研修：早期支援
2019年8月	[第3回] 地域におけるリスクアセスメント研修
	[第17回] 多職種による包括型アウトリーチ研修
2019年9月	[第7回] 医療における個別就労支援研修
	[第33回] 薬物依存臨床医師研修
	[第21回] 薬物依存臨床看護等研修
	[第17回] 摂食障害治療研修
2019年10月	[第12回] 発達障害地域包括支援研修：精神保健・精神医療
	[第57回] 精神保健指導課程研修
2019年11月	[第4回] 災害時PFAと心理対応研修
	[第11回] 認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修
2020年1月	[第28回] 発達障害支援医学研修

毎年1月頃に、翌年度の研修予定をお知らせしています。

## TMCの臨床研究セミナー

### 臨床現場の疑問から、世界へ発信するエビデンスを作る

TMC(トランスレーショナル・メディカルセンター)では、医療従事者であれば誰でも持つ臨床的疑問(Clinical Question;CQ)を、研究疑問(Research Question;RQ)として構造化させる過程を支援します。学びのきっかけの場として、「臨床研究入門講座ワークショップ」や「厚生労働省主催臨床研究・治験従事者研修」(医師・歯科医師対象)を開催し、小グループでの演習やピアレビューを通して、漠然とした疑問を検証可能な研究疑問に変換するトレーニングを行います。NCNP内外の、多様な専門性や背景を持つ参加者による白熱したディスカッションで、一歩先を行く研究テーマを作ります。

また、CQからRQへの構造化に続くサポートとして、生物統計セミナーや、臨床試験データの質管理に関わる「モニタリング/データマネジメントセミナー」の開催、医学論文や研究発表での英語用法について多数の著書を持つ講師を招いて「Meet the Expert 医学英語セミナー」を開講するなど、研究成果の国際的な発信を促進する活動をしています。



各グループで作成したプロトコル骨子について発表。講師と参加者の間で白熱した議論が行われている

※2020年4月以降のセミナーはオンライン開催となりました。

## 第16回脳神経内科短期臨床研修セミナー

### 初の試み、ハイブリッド形式での開催

このセミナーは若手脳神経内科医を対象に、臨床に役立つ実践的な知識を習得するとともに、臨床・研究の最前線に触れることを目的に行われています。例年は夏季セミナーとして7月に開催していましたが、本年度はCOVID-19の影響で9月開催となりました。開催にあたっては現地参加とWeb視聴のハイブリッド形式を採用しました。Web視聴者はあっという間に定員の30名に到達し、現地参加も9名とほぼ当初の予定通りの人数となりました。感染対策には万全を期し、ICT(感染対策チーム)の指導の下、4日前からの体温・体調申告、当日の検温・マスク装着・手指消毒を徹底し、十分な距離を確保して行いました。

本年度は、全体講義(小脳失調症、不随意運動の診断と治療、神経病理、てんかんと脳波、神経生理、認知症、筋疾患、パーキンソン病と関連疾患、MSとNMO、神経遺伝学)および選択講義(嚥下機能検査、ボツリヌス毒素治療、人工呼吸器療法、臨床研究、パーキンソン病のDevice Aided Therapy)、研究所見学、診察見学、クリニカルカンファランスと、例年に勝るとも劣らない充実した内容となりました。全体講義はWeb配信を行いました。診察見学は、患者さんを会場にお連れして、部長が診察を行い、参加者は十分に離れた距離から直接見学、または会場のスクリーンに映像を流して見学する形で行いました。クリニカルカンファランスでは、神経心理学の高名な専門家である武田克彦先生を現地に招聘し、白熱した議論を行うことができました。

初の開催形式で苦労もありましたが、スタッフ一丸となって取り組んだ結果、現地参加者・Web視聴者双方から「感動した」「勉強になった」「診療に役立てたいと思う」など多数の好意的な意見をいただき、新たな可能性を拓くことが出来たと思います。



十分な距離を取って行われた全体講義の様子



広報活動 NCNPにおける最新の医療・研究成果を知っていただくための活動に力を入れています。

NCNPホームページのリニューアル

どの端末でも見やすくするとともにウェブアクセシビリティを重視

NCNPのホームページが2020年6月21日に新しく公開されました。情報が探しやすく、読みやすいサイトを目指して、構成やデザインを刷新しました。特に、これまで対応できていなかったスマートフォンでの閲覧については、端末のサイズに合わせた表示になり、大きく改善され見やすくなりました。

NCNPは病院、2つの研究所、4つのセンターで構成され、それぞれのウェブサイトから、日々、多くの情報が発信されています。

今回リニューアルしたのは、NCNPの全施設の総合的な入口となる部分とNCNPの情報掲載ページ、2つの研究所のトップページです。大量の情報を抱える当センターのホームページですが、すっきりと目に優しく表示されるよう工夫しました。

また、最新の研究成果であるプレスリリース情報の更新が、画像アイコンの表示で、ひと目でわかるようになりました。

公開後も、利用される方の意見を反映し、改善を進めています。



リニューアルしたNCNPウェブサイトのトップページ



大きく改善されたスマートフォン端末での表示

みなさまへ

SNSによる発信

NCNPの情報をタイムリーに発信するためTwitterを活用しています。プレスリリースはホームページと連動し、スピーディーかつ詳細な情報にアクセスできるようにしています。

また、YouTube公式チャンネルでは、本年度のCOVID-19感染症対策下において、遠隔での情報提供が可能なツールとして研修やリハビリテーション動画などを配信しています。

Twitter



- プレスリリース
- 受賞報告
- 研修・セミナー情報
- 市民公開講座
- 診療情報
- TV・ラジオ出演情報
- 採用情報
- など

YouTube



- センターについて
- 病院紹介
- 研修動画
- リハビリテーション動画
- シンポジウム視聴
- など

報道メディアに向けて

プレスリリース・記者会見

報道各社に向けて積極的な情報配信を継続的に行っています。最新の医療・研究成果についてタイムリーなプレスリリースをするほか、記者会見・セミナーなどを通して、NCNPの医師や研究者たちとジャーナリストの交流をサポートしています。

2019年度以降、プレスリリース46本（2020年9月現在）、記者会見も適宜開催しています。



デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬の製造販売承認について記者会見の様子（2020年3月）



リニューアルしたホームページでは、プレスリリースほか最新の情報を大きな画像を使って表示

広報誌

NCNPについてわかりやすく伝えられるよう、各種の広報冊子を制作しています。印刷物だけでなく、ウェブサイトにも掲載し、いつでも見られるようになっています。



[NCNPアニュアルレポート] <年報・日本語版> ビジュアルを中心にNCNPの活動を誰にでもわかりやすく紹介



[NCNPパンフレット] <日本語版・英語版> NCNPの病院と各研究所、センターについて紹介



[NCNP診療ニュース] <隔月刊> NCNPの診療についての最新情報を定期的に紹介



[精神保健研究所パンフレット] <日本語版> 精神保健研究所の活動を対談記事や写真などでわかりやすく紹介